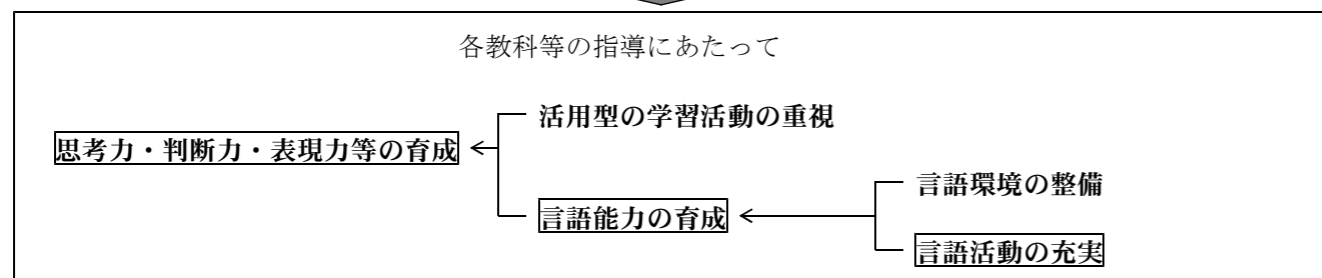
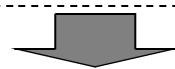


## 国語科を中核に各教科等で「言語活動の充実」をはかるための資料（小学校）

### 1 何のための「言語活動の充実」か

学習指導要領第1章第4の2(1) (p16)

各教科等の指導に当たっては、児童の思考力、判断力、表現力等をはぐくむ観点から、基礎的・基本的な知識及び技能の活用を図る学習活動を重視するとともに、言語に対する関心や理解を深め、言語に関する能力の育成を図る上で必要な言語環境を整え、児童の言語活動を充実すること。



### 2 育成する「言語能力」とは何か？ そのための言語活動例は？

\* 後付資料参照（これらの内、各教科等の活動に適う部分を活用するとよい）

学習指導要領解説国語編より抜粋

### 3 各教科等において、どのような言語活動をすればいいのか？

学習指導要領解説総則編第5節1 (p54)

- 【例】
- 社会：「観察や調査・見学などの体験的な活動やそれに基づく表現活動の一層の充実」
  - 算数：「三角形、平行四辺形、ひし形及び台形の面積の求め方を、具体物を用いたり、言葉、数、式、図を用いたりして、考え、説明する」といった算数的活動の充実
  - 理科：「観察、実験の結果を整理し考察する学習活動や、科学的な言葉や概念を使用したり考えたり説明したりするなどの学習活動」の充実
  - 生活：「自分たちの生活や地域の出来事を身近な人々と伝え合う活動を行い、身近な人々とかかわることの楽しさが分かり、進んで交流する」活動の充実
  - 音楽：「楽曲を聴いて想像したことや感じ取ったことを言葉で表すなどして、楽曲の特徴や演奏のよさを理解すること」の重視
  - 図工：「感じたことや思ったことを話したり、友人と話し合ったりするなどして、表し方の変化、表現の意図や特徴などをとらえること」の重視
  - 家庭：「衣食住などの生活の中の様々な言葉を実感を伴って理解する学習活動や、自分の生活における課題を解決するために言葉や図表などを用いて生活をよりよくする方法を考えたり、説明したりするなどの学習活動」の充実
  - 体育：チーム内での話し合いを通じて「自分のチームの特徴に応じた作戦を立て」る活動の重視
  - 外国語：積極的にコミュニケーションを図る態度をはぐくむとともに我が国と外国の言語や文化について体験的に理解を深める
  - 道徳：「自分の考えを基に、書いたり話し合ったりするなどの表現する機会を充実」
  - 総合：「問題の解決や探究活動の過程においては、他者と共同して問題を解決しようとする学習活動や、言語により分析し、まとめたり表現したりするなど学習活動が行われるようにすること」を重視
  - 特活：「体験活動を通して気付いたことなどを振り返り、まとめたり、発表し合ったりするなどの活動」の充実

\* あくまでも例示である。各教科等の学習活動を構想する際、どのような言語活動を充実させるかのは、学校や児童の実態による。

### 4 言語活動の充実とセットの「言語環境の整備」とはどういうことか？

学習指導要領解説総則編第5節1 (p55)

1 言語に関する能力を向上させ、言語に対する意識や関心を高め理解を深めることは、（各教科等の指導だけでなく、）学校生活全体で配慮することが大切。

- 児童の日常生活において、言語活動は何らかの生活目的を達成するために行われている。

したがって、児童がどのような目的のために言語活動をするのかという意識をもち、その目的にかなった言語活動ができるようにすることが大切。

そのためには、

- ・ 児童が日常生活における言語の役割や機能などについて意識や関心をもって正しい国語を用いるよう指導することが必要。
- ・ 教師自身が児童より一層言語に対する意識と関心をもって指導に当たることが必要。

2 児童の言語活動は、児童を取り巻く言語環境によって影響を受けることが大きいので、学校生活全体における言語環境を整備することも大切。

- 例えば、
  - ① 教師は正しい言語で話し、黒板などに正確で丁寧な文字を書く。
  - ② 校内の掲示やポスター、児童に配布する印刷物において用語や文字を適正に使用する。
  - ③ 校内放送において、適切な言葉を使って簡潔に分かりやすく話す。
  - ④ 適切な話し言葉や文字が用いられている教材を使用する。
  - ⑤ 教師と児童、児童相互の話し言葉が適切に行われるような状況をつくる。
  - ⑥ 児童が集団の中で安心して話ができるような教師と児童、児童相互の好ましい人間関係を築く。

この他に、

- ・ 色のみによる識別に頼った表示方法をしない。
- ・ 特に小学校段階では、教師の話し言葉などが児童の言語活動に与える影響が大きいので、それを適切にする。

## 「話すこと・聞くこと」の言語活動

### I 目標－育てる言語能力等－

	第1・2学年	第3・4学年	第5・6学年
<b>話すこと・聞くこと</b>	相手に応じ、身近な話すことなどについて、事柄の順序を考えながら話す能力、 大事なことを落とさないように聞く能力、 話題に沿ってし合う能力を身に付けさせるとともに、 進んで話したり聞いたりしようとする態度を育てる。	相手や目的に応じ、調べたことなどについて、筋道を立てて話す能力、 話の中心に気を付けて聞く能力、 進行に沿って話し合う能力を身に付けさせるとともに、 工夫をしながら話したり聞いたりしようとする態度を育てる。	目的や意図に応じ、考えたことや伝えたいことなどについて、的確に話す能力、 相手の意図をつかみながら聞く能力、 計画的に話し合う能力を身に付けさせるとともに、 適切に話したり聞いたりしようとする態度を育てる。

### II 指導事項

	第1・2学年	第3・4学年	第5・6学年
<b>話題設定・取材</b>	・ 身近なことや経験したことなどから話題を決め、必要な事柄を思い出すこと。	・ 関心のあることなどから話題を決め、必要な事柄について調べ、要点をメモすること。	・ 考えたことや伝えたいことなどから話題を決め、収集した知識や情報を関係付けること。
<b>話すこと</b>	・ 相手に応じて、話す事柄を順序立て、丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて話すこと。 ・ 姿勢や口形、声の大きさや速さなどに注意して、はっきりした発音で話すこと。	・ 相手や目的に応じて、理由や事例などを挙げながら筋道を立て、丁寧な言葉を用いるなど適切な言葉遣いで話すこと。 ・ 相手を見たり、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意したりして話すこと。	・ 目的や意図に応じて、事柄が明確に伝わるように話の構成を工夫しながら、場に応じた適切な言葉遣いで話すこと。 ・ 共通語と方言との違いを理解し、また、必要に応じて共通語で話すこと。
<b>聞くこと</b>	・ 大事なことを落とさないようにしながら、興味をもって聞くこと。	・ 話の中心に気を付けて聞き、質問をしたり感想を述べたりすること。	・ 話し手の意図をとらえながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめること。
<b>話し合うこと</b>	・ 互いの話を集中して聞き、話題に沿って話し合うこと。	・ 互いの考えの共通点や相違点を考え、司会や提案などの役割を果たしながら、進行に沿って話し合うこと。	・ 互いの立場や意図をはっきりさせながら、計画的に話し合うこと。

### III 言語活動（例）

#### 1 説明・報告

	第1・2学年	第3・4学年	第5・6学年
概要	事物の説明や経験の報告をしたり、それらを聞いて感想を述べたりする。	出来事の説明や調査の報告をしたり、それらを聞いて意見を述べたりする。	資料を提示しながら説明や報告をしたり、それらを聞いて助言や提案をしたりする。
指導上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 話すこと・聞くことの一時的指導               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 説明や報告をすること（話すこと）と、それらを聞いて感想を述べること（聞くこと）とを一体化して指導する。</li> </ul> </li> <li>○ 「事物の説明」の指導               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 身の回りの事柄やものを取り上げる。</li> <li>・ 話すことを幾つかに絞らせる。</li> <li>（例） その事物が生活の中でどのような役割を果たしているのか、そのためにどのような構造になっているのかなど</li> <li>・ 実際の説明では、必要に応じて原因や理由を付け加えながら事柄を順序立てたり、相手に分かりやすいように事物そのものを見せたりするなどの工夫をさせる。</li> </ul> </li> <li>○ 「経験の報告」の指導               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学級や学校、家庭や地域での経験を取り上げる。</li> <li>・ 経験したことによってどのようなことを感じたのか、知らせたいことは何なのかなどを明確にさせる。</li> <li>・ 経験したことが生き生きと伝わるように内容を思い出させる。</li> <li>・ 時間の経過に基づいて順序立てる。</li> </ul> </li> <li>○ 聞き手の指導               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 話し手の思いや願いに共感しながら聞き、感想をもつよう導く。</li> <li>・ 聞いたことを整理して相手に伝えさせる。</li> <li>* 聞き手は自分の考えを一層明確にすることができ、話し手は話そうという意欲を喚起される。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 話すこと・聞くことの一時的指導               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 出来事の説明や調査の報告をしたり、それらを聞いて自分の意見を述べたりする。</li> </ul> </li> <li>○ 「出来事の説明」の指導               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学校や地域での催し、季節にちなんだ行事などを取り上げる。</li> <li>（例） 日常生活の中に根付いている文化的な催しなどの歴史や意義、その運営や人々の参加の様子についてまとめて、説明する。</li> <li>・ 催しなどの内容を知っている人に話す場合と知らない人に説明する場合、児童自身がその催しなどに参加している場合と本や文章などで調べただけの場合などがあることに注意する。</li> <li>・ 情報活用能力の育成の面からも、録音や録画の機器を積極的に活用する。</li> </ul> </li> <li>○ 「調査の報告」の指導               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 関心のあることや、各教科等で行う観察や実験、調査などを取り上げる。</li> <li>・ 調査の目的に合わせて、観察や実験の経過や成果、本、インタビュー、アンケートなど調べるための方法も選ばせる。</li> <li>・ 報告するときには、調査の目的や方法、調べたときの記録を生かし、結果や成果とともに分かったことや考えたことを明確にさせる。</li> <li>・ 情報活用能力の育成の面からも、録音や録画の機器を積極的に活用する。</li> </ul> </li> <li>○ 聞き手の指導               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 話し手がどのような課題について調べ、分かったことや考えたことをまとめているかに気を付けて、その内容や、説明や報告の仕方の分かりやすさなどについての意見をまとめさせる。</li> <li>・ 意見をまとめるために、話の要点、気付いたことや連想したことなどをメモさせる。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 話すこと・聞くことの一時的指導               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 相手に対して説明や報告をするときに資料を提示しながら発表したり、それらを聞いて助言や提案をしたりする。</li> </ul> </li> <li>○ 資料の選択や作成、活用の指導               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 準備した説明や報告の発表原稿にふさわしく、相手の理解を深められるような資料の提示、適切な資料の選択や作成、それらを活用した話し方を指導する。</li> <li>・ 資料としては、本や文章、実物や映像、リーフレットやパンフレット、図表などから適切なものを用いる。</li> <li>・ 話す内容と資料との整合、適切な時間や機会での資料の提示、スピーチ原稿や資料への目配りの仕方、相手の反応などに注意した話し方を指導する。</li> <li>・ コンピュータのプレゼンテーションソフトなどを利用して発表させることも考えられる。</li> </ul> </li> <li>○ 「聞き手の指導」               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 内容を理解し、自分の考えと比べてより自分の考えを明確にしたり、話し手の立場に立って助言や提案したりすることができるようにする。</li> <li>・ 説明や報告の内容と、資料を提示しながら話す説明や報告の仕方との両面に対する助言や提案を考えさせる。</li> </ul> </li> </ul>

	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年
国語科教材						
他教科等での活用場面						

## 2 話し合い・討論

	第1・2学年	第3・4学年	第5・6学年
概要	尋ねたり応答したり、グループで話し合っって考えを一つにまとめたりする。	学級全体で話し合っって考えをまとめたり、意見を述べ合ったりする。	調べたことやまとめたことについて、討論などをする。
指導上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 対話やグループでの話し合い</li> <li>○ 質疑応答（「尋ねたり応答したり」）の指導 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 内容を確認したり、分からないことを質問したり、その質問に答えることを自覚して応答したりすることができるようにする。</li> </ul> </li> <li>○ 考えを一つにまとめるための指導 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「グループで話し合っって考えを一つにまとめたりすること」では、話題に関して最終的に考えを一つにまとめることを求めている。</li> <li>・ 一人一人が自分の考えを出し合っってから、グループで考えをまとめていくような過程を重視する。</li> <li>・ 第1学年の当初は、ペアでの話し合いから始め、徐々に、3人、4人と人数を増やしていく。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学級全体での話し合い</li> <li>○ 運営方法（役割分担や話し合いの進め方）の指導 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学級全体で話し合うためには、司会者や提案者、参加者などの役割を決めて運営する。</li> <li>・ 個人やグループでの意見を十分明確にする時間を確保する。</li> <li>・ 個人やグループの意見の共通点や相違点を整理し、それぞれの考えを反映させながら、学級全体として一つの考えに集約することや、討論を交わして考えを深め合っったり広げ合っったりする。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 討論 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 調べたことやまとめたことを話題として取り上げ、互いの考えを出し合い討論する。</li> </ul> </li> <li>○ 資料の準備・活用の指導 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 調べたことやまとめたことについて討論するために、本や文章を調べたり、インタビューやアンケートを行ったりするなどして、自分なりに幅広く考え、資料を用意しておくよう指導する。</li> <li>・ 異なる意見や対立する意見が出たときには、準備した資料などに基づいて明確に対応することを指導する。</li> </ul> </li> <li>○ 多様な討論の指導 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 座談会やパネルディスカッションなどの公開討論の形式などを利用し、討論の仕方を理解させたり、討論を実際に行ったりさせるなどの工夫をする。</li> </ul> </li> </ul>

	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年
国語科教材						
他教科等での活用場面			社会科) 学校の周りを探検して調べたことや分かったことをグループで話し合っって地図にまとめる。 体育科) フラッグフットボールの作戦をグループで話し合う。		社会科) 自然災害を防ぐ工夫や努力について各自で調べたことをもとに「学級防災会議」を開いて話し合う。	

### 3 あいさつ・連絡

	第1・2学年	第3・4学年	第5・6学年
概要	場面に合わせてあいさつをしたり、必要なことについて身近な人と連絡をし合ったりする。		
指導上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 日常生活場面への連動               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ あいさつや連絡という日常生活場面に生きるよう指導する。</li> </ul> </li> <li>○ 「あいさつ」の指導               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 一日の生活の中からのいろいろな場面を設定し、身振りや表情なども交えながら場面に合わせたあいさつができるようにする。</li> </ul> </li> <li>○ 「連絡」の指導               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習や行事で使用する持ち物や催し物の日時や場所などの連絡を取り上げる。</li> <li>・ 連絡をする際に大事なことを落とさないようにするために、必要に応じてメモを取るなどの活動も取り入れる。</li> </ul> </li> </ul>		

	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年
国語科教材						
他教科等での活用場面						

#### 4 紹介・推薦

	第1・2学年	第3・4学年	第5・6学年
概要	知らせたいことなどについて身近な人に紹介したり、それを聞いたりする。	図表や絵、写真などから読み取ったことを基に話したり、聞いたりする。	事物や人物を推薦したり、それを聞いたりする。
指導上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「紹介」の指導 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 身の回りから、自分が興味を抱いたり、楽しく感じたり、好ましく思ったりした事物を選んで、教師や友達、家族などに紹介させる。</li> <li>・ 知らせたいことなどを紹介する言語活動は、「書くこと」や「読むこと」においても取り上げる。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 図表等の読み取りの指導 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 図表や絵、写真などは、それ自体を取り上げる場合もあれば、文や文章などに収録されているものを取り上げる場合もある。いずれの場合にも、それらから、目的に応じて効果的に情報を得たり、自分の考えをもったりするよう指導する。</li> <li>* 図は、分類や組織、構成や関係、手順や過程などを端的に表すためのものである。箇条書きなども、図解の一つである。</li> <li>* 表やグラフは、変化や傾向、順位、時間の経過などを表したり、全体の構成要素を概観したりするのに役立つものであり、多様な表現方法が用いられる。</li> <li>* 絵や写真には、芸術的なものだけでなく、物事を説明するために用いられているものもある。</li> </ul> </li> <li>○ 図表等を活用して話す指導 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 図表等の資料は、多様な目的や方法によって活用されているが、中学年では、話すときにこのような資料のいくつかを取り上げ、相手に分かりやすく説明や報告をするなどの言語活動を重視する。</li> </ul> </li> <li>○ 聞き手の指導 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 友達の読み取ったことに妥当性があるかを判断したり、自分の読み取ったこととの共通点や相違点は何かを見付けたり、新たに得た情報を自分の考えに生かしたりすることを指導する。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「推薦」の指導 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事物や人物を取り上げ、それらのよさを考えて推薦させたり、それを聞いたりさせる。</li> <li>・ 推薦は紹介を発展させたものである。</li> <li>・ 推薦では、推薦者が、対象の特徴を深く理解し、そのよさを相手に説明することが求められる。</li> <li>・ 推薦する対象としては、事物や人物などを取り上げる。</li> <li>・ 対象について十分調べ、そのよさを整理し、相手の要求や目的も考慮し、推薦したい点をまとめておくようにさせる。</li> <li>・ 推薦は、伝えたいという自分の目的にとどまらず、相手の要求や目的にも合致した事物や人物を取り上げて伝えることが必要とされる。話すときには、相手にそのよさが伝わるように、理由を説明したり、エピソードとなる事例を挙げたり、図解したりするなどして印象付けるように話すことを指導する。</li> </ul> </li> <li>(例) 推薦するまでに至った経緯や推薦したい理由を中心とした話の構成を考えたり、「立派な人物である」、「～に役立つ」といった推薦したい気持ちを伝えるような言葉を選んだりすることができるようにする。</li> <li>○ 聞き手の指導 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 推薦した理由がよく分かるか、納得できるかなどに留意して聞くよう指導する。</li> </ul> </li> <li>○ 他領域との関連 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「書くこと」の「事物のよさを多くの人に伝えるための文章を書くこと」や、「読むこと」の「本を読んで推薦の文章を書くこと」と関連付けて指導すると効果的である。</li> </ul> </li> </ul>

	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年
国語科教材						
他教科等での活用場面						

## 「書くこと」の言語活動

### I 目標－育てる言語能力等－

	第1・2学年	第3・4学年	第5・6学年
<b>書くこと</b>	経験したことや想像したことなどについて、順序を整理し、簡単な構成を考えて文や文章を書く能力を身に付けさせるとともに、進んで書こうとする態度を育てる。	相手や目的に応じ、調べたことなどが伝わるように、段落相互の関係などに注意して文章を書く能力を身に付けさせるとともに、工夫をしながら書こうとする態度を育てる。	目的や意図に応じ、考えたことなどを文章全体の構成の効果を考えて文章に書く能力を身に付けさせるとともに、適切に書こうとする態度を育てる。

### II 指導事項

	第1・2学年	第3・4学年	第5・6学年
<b>話題設定・取材</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>経験したことや想像したことなどから書くことを決め、書こうとする題材に必要な事柄を集めること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>関心のあることなどから書くことを決め、相手や目的に応じて、書く上で必要な事柄を調べること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>考えたことなどから書くことを決め、目的や意図に応じて、書く事柄を収集し、全体を見通して事柄を整理すること。</li> </ul>
<b>構成</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文章全体における段落の役割を理解し、自分の考えが明確になるように、段落相互の関係などに注意して文章を構成すること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の考えを明確に表現するため、文章全体の構成の効果を考えること。</li> </ul>
<b>記述</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>語と語や文と文との続き方に注意しながら、つながりのある文や文章を書くこと。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>書こうとするものの中心を明確にし、目的や必要に応じて理由や事例を挙げて書くこと。</li> <li>文章の敬体と常体との違いに注意しながら書くこと</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事実と感想、意見などを区別するとともに、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりすること。</li> <li>引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書くこと。</li> </ul>
<b>推敲</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いなどに気付き、直すこと。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文章の間違いを正したり、よりよい表現に書き直したりすること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>表現の効果などについて確かめたり工夫したりすること。</li> </ul>
<b>交流</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>書いたものを読み合い、よいところを見つけて感想を伝え合うこと。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>書いたものを発表し合い、書き手の考えの明確さなどについて意見を述べ合うこと。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>書いたものを発表し合い 表現の仕方に着目して助言し合うこと。</li> </ul>

### III 言語活動例

#### 1 創造的な文章（創作文）

	第1・2学年	第3・4学年	第5・6学年
概要	想像したことなどを文章に書く。	身近なこと、想像したことなどを基に、詩をつくったり、物語を書いたりする。	経験したこと、想像したことなどを基に、詩や短歌、俳句をつくったり、物語や随筆などを書いたりする。
指導上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 想像したことなどを文章に書く指導 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 想像したことなどから、登場人物を決め、簡単なお話を書いたり、見たことや経験して感じたことを詩の形式で書いたりさせる。</li> <li>・ 物語の内容について、書き加えたり、書き換えたり、続きを書いたりするなどの活動も考えられる。</li> </ul> </li> <li>○ 発達特性を生かす指導 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自由に空想や想像の世界を膨らませることができるこの時期の児童の特性を生かすことで、一層楽しい活動を行うようにする。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 題材 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学校や家庭、地域などで実際に見聞したり、行動したり、経験したりしたことや想像したことなどを基に、詩をつくったり物語を書いたりさせる。</li> </ul> </li> <li>○ 「読むこと」との関連 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「読むこと」の「物語や詩を読み、感想を述べ合うこと」との関連を図り、詩や物語の基本的な特徴を理解し、書くことを楽しむようにすることが大切である。</li> </ul> </li> <li>○ 発達段階に応じた指導 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中学年では、次のような特徴を必ずしも十分満たさなくとも、児童の思いを大切に創造的な表現をすることの楽しさを実感させることが大切である。 <ul style="list-style-type: none"> <li>* 詩は、凝縮した表現であること、普通の文章と違った改行形式や連による構成になっていることといった特徴をもっている。</li> <li>* 物語は、主人公やその他の登場人物がそれぞれの役割をもっていること、フィクション（虚構）の世界が物語られていること、冒頭部に状況や登場人物が設定され、事件とその解決が繰り返され発端から結末へと至る事件展開によって構成されていることなどの特徴をもっている。</li> <li>* また、詩も物語も、語り手が、一人称や三人称などの視点から語っていく形式となっている。</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 短歌や俳句の創作指導 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中学年の〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕の「易しい文語調の短歌や俳句について、情景を思い浮かべたり、リズムを感じ取りながら音読や暗唱をしたりすること」と関連付けて指導すると効果的である。</li> <li>・ 高学年の児童は、既に、短歌や俳句を音読したり暗唱したりすることによって、季節や風情、歌や句に込めた思いなどを思い浮かべたり、国語の美しい響きを感じ取ったりすることを学習してきている。ここでは、身近な情景や生活の中での出来事をとらえ、伝統的な定型詩の特徴を生かした創作を行うことによって、七音五音を中心とする言葉の調子やリズムに親しんだり、凝縮した表現によって創作する楽しさを味わわせるようにすることが大切である。 ※ 創作によって、短歌や俳句の特徴を一層理解するとともに、それらを更に読もうとする態度を養うことにつながる。</li> </ul> </li> <li>○ 随筆の指導 <ul style="list-style-type: none"> <li>* 随筆は、身近に起こったこと、見たことや聞いたこと、経験したことなどを他の人にも分かるように描写した上で、感想や感慨、自分にとっての意味などをまとめたものである。</li> <li>・ 随筆を書くことで、出来事や経験などをきっかけに、自分自身も持っているものの見方や考え方、生き方などを見つめ直したり深めたりすることができる。</li> <li>・ 考えるきっかけになった出来事や経験などを体験的にまとめて書かせる。</li> <li>・ 物語や詩などを書き続けて身に付けてきた描写などの文学的な文章の表現力を生かす。</li> <li>・ そのような出来事や経験などの事情や背景を想像したり推測したりして、自分の考えを記述したり説明したりする必要があり、説明や報告などを書き続けて身に付けてきた説明的な文章の表現力なども生かす。</li> </ul> </li> </ul>

	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年
国語科教材						
他教科等での活用場面				図工) 想像画を書く前に言葉で簡単な物語を書き、想像を膨らませる。		



## 2 報告文・記録文

	第1・2学年	第3・4学年	第5・6学年
<b>概要</b>	経験したことを報告する文章や観察したことを記録する文章などを書く。	疑問に思ったことを調べて、報告する文章を書いたり、学級新聞などに表したりする。	自分の課題について調べ、意見を記述した文章や活動を報告した文章などを書いたり編集したりする。
<b>指導上の留意点</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「経験したこと」を報告する指導 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 低学年であることを考え、学校や学級、地域や家庭の行事に参加したこと、学校や地域を探検してきたことなどから取り上げていくようにする。</li> <li>・ 報告する相手を明確に設定する。</li> <li>・ 報告するという目的に沿って内容や文章構成を工夫することを指導する。</li> </ul> </li> <li>○ 「観察したこと」を記録する指導 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 観察したことや観察して感じたことなどを、その場で確実に記録していくことが必要となる。</li> <li>・ 対象として、低学年では、身近な自然の観察や、飼育、栽培している動植物などの観察などが考えられる。</li> </ul> </li> <li>○ 「話すこと・聞くこと」との関連 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「話すこと・聞くこと」の「事物の説明や経験の報告をしたり、それらを聞いて感想を述べたりすること」と関連付けて指導すると効果的である。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「疑問に思ったこと」を調べる指導 <ul style="list-style-type: none"> <li>(例) 自分の経験したことの中から不思議に思ったことや、身の回りの事柄や学習した事柄について疑問に思っていることなど。</li> <li>・ 調べた結果を友達に説明するなど、書く相手や目的を明確にもつことのできる場面の設定が必要となる。</li> <li>・ 設定した相手、目的や場面に応じて、書く材料の収集や選択の仕方、まとめ方などを様々に工夫させる。</li> <li>・ その際、報告する文章や学級新聞などの特徴に基づいて書くことが必要となる。</li> <li>・ 報告する文章では、調査の目的や方法、調査の結果とそこから考えたことを明確に書くことになる。</li> </ul> </li> <li>○ 学級新聞づくりの指導 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学級新聞では、複数の種類の文章を集めて編集し、見出しを付けたり記事を書いたり、割り付けをしたりする指導を行う。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「自分の課題について」調べる指導 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 一人一人の児童が課題を設定し、それについて調べて知識や情報を得ることである。</li> <li>・ 課題は、自分自身の経験に基づいて設定する場合、資料などを読んで更に調べたいと思って設定する場合、交流を通して設定する場合、自分がこれまでに書いたものを読み返して設定する場合などが考えられる。</li> </ul> </li> <li>○ 「意見を記述した文章や活動を報告した文章など」を書く指導 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 課題に応じてどのような種類の文章を用いるのかを明確に意識する必要がある。</li> <li>・ 意見を記述した文章や活動を報告した文章のほかに、例えば、調査や研究を報告する文章、解説したり提案をしたりする文章などが考えられる。</li> </ul> </li> <li>○ 「書いたり編集したりする」指導 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 一つの文章を書くことに加え、複数の文章を一定の目的の基に組み合わせて表現することである。</li> <li>(例) 意見や活動の報告文集、本や新聞、リーフレットやパンフレットなどを編集することなど</li> <li>・ 目的や意図に応じた編集として章立てや節などを工夫するとともに、題名や前書き、目次、後書き、奥付などを付け、実際の本や新聞、雑誌などの編集に合わせるようにすることが大切である。</li> </ul> </li> </ul>

	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年
<b>国語科教材</b>						
<b>他教科等での活用場面</b>	生活) 自分の成長を振り返る学習のまとめとして「自分物語」を書き記録として残しておく。					

### 3 説明文・紹介文

	第1・2学年		第3・4学年		第5・6学年	
<b>概要</b>	身近な事物を簡単に説明する文章などを書く。		収集した資料を効果的に使い、説明する文章などを書く。		事物のよさを多くの人に伝えるための文章を書く。	
<b>指導上の留意点</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 身近な事物 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 例えば、生活科をはじめとした各教科等の学習はもちろん、学校生活や家庭生活において、児童が慣れ親しんでいる事物が考えられる。</li> </ul> </li> <li>○ 書く指導 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事物の特徴に沿って、説明する順序を考えながら、形状や様子、動きなどを簡単に文章に書くことを指導する。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 紹介したいことの活用 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 児童は、人物や遊び、施設、本、絵など、日常生活の中に紹介したいことを多くもっている。これらを活用し、紹介のためのメモや文章を書くようにする。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「収集した資料を効果的に使う」指導 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 説明する相手や目的に応じて、本や文章、図表、絵画、写真、具体物などの資料を収集し、考えを高めることと、構成や記述のためにこれらの資料を活用することである。</li> </ul> </li> <li>○ 書くべき「説明する文章など」の指導 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 文章だけでなく、図鑑や小冊子などの形も考えられる。</li> <li>・ 文章を図解する資料となっていることや、写真やグラフなどを具体的に解説した文章となっていることなど、文章と図表などの資料とが相互に密接な関連をもつものであることを意識できるようにする。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 事物のよさを多くの人に伝える文章を書く指導 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分が他の人に薦めたいと思う事物を取り上げ、そのよさを多くの人に伝わるように、様々な形式の中から適切なものを選んで書かせる。 (例) 推薦書や宣伝文、紹介のためのポスター、案内のための小冊子など</li> <li>・ 推薦したり宣伝したりするためには、その事物についてよく認識する必要がある。確かな理由や根拠に裏付けられていることや、他のものと比較してのよさなどをとらえることができるよう指導する必要がある。</li> <li>・ 相手は、特定の人だけでなく不特定の人の場合もあるので、それぞれに応じて工夫することが大切である。</li> <li>・ 書いたものを実際に多くの人に読んでもらう場を設定することを通して指導の効果を高めることが重要である。</li> </ul> </li> </ul>		
	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年
<b>国語科教材</b>						
<b>他教科等での活用場面</b>						

#### 4 手紙

	第1・2学年	第3・4学年	第5・6学年
概要	伝えたいことを簡単な手紙に書く。	目的に合わせて依頼状、案内状、礼状などの手紙を書く。	
指導上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 実用的な文章（手紙）の指導</li> <li>・ 相手を明確にして伝えたり、返事をもらったりという交流を重視する。</li> <li>・ 低学年では形式を重んじるよりも、短い文や伝言でもよいので、書いた手紙で交流する楽しさを感じ取らせるようにすることが大切である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 実用的な文章（手紙）の指導</li> <li>・ ここでは、地域での体験学習の指導を依頼する手紙、学校行事について案内をする手紙、地域の方にお世話になったことへのお礼の手紙などを書くことが考えられる。</li> <li>・ 表書きに宛て名や住所などを正しく書くことや、後付けにおける署名と宛て名の位置関係といった基本的な形式なども押さえる。</li> </ul>	

	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年
国語科教材						
他教科等での活用場面		生活) 町探検の報告会に招待する人へ案内状や招待状、お礼状を書く。				

## 「読むこと」の言語活動

### I 目標－育てる言語能力等－

	第1・2学年	第3・4学年	第5・6学年
<b>読むこと</b>	書かれている事柄の順序や場面の様子などに気付いたり、想像を広げたりしながら読む能力を身に付けさせるとともに、楽しんで読書しようとする態度を育てる。	目的に応じ、内容の中をとらえたり段落相互の関係を考えたりしながら読む能力を身に付けさせるとともに、幅広く読書しようとする態度を育てる。	目的に応じ、内容や要旨をとらえながら読む能力を身に付けさせるとともに、読書を通して考えを広げたり深めたりしようとする態度を育てる。

### II 指導事項

	第1・2学年	第3・4学年	第5・6学年
<b>音読</b>	・ 語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。	・ 内容の中心や場面の様子がよく分かるように音読すること。	・ 自分の思いや考えが伝わるように音読や朗読をすること。
<b>効果的な読み方</b>			・ 目的に応じて、本や文章を比べて読むなど効果的な読み方を工夫すること。
<b>説明的な文章の解釈</b>	・ 時間的な順序や事柄の順序などを考えながら内容の大体を読むこと。	・ 目的に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係や事実と意見との関係を考え、文章を読むこと。	・ 目的に応じて、文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえたり、事実と感想、意見などとの関係を押さえ、自分の考えを明確にしながら読んだりすること。
<b>文学的な文章の解釈</b>	・ 場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。	・ 場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読むこと。	・ 登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめること。
<b>自分の考えの形成・交流</b>	・ 文章の中の大事な言葉や文を書き抜くこと。 ・ 文章の内容と自分の経験とを結び付けて、自分の思いや考えをまとめ、発表し合うこと。	・ 目的や必要に応じて、文章の要点や細かい点に注意しながら読み、文章などを引用したり要約したりすること。 ・ 文章を読んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方について違いのあることに気付くこと。	・ 本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすること。
<b>目的に応じた読書</b>	・ 楽しんだり知識を得たりするために、本や文章を選んで読むこと。	・ 目的に応じて、いろいろな本や文章を選んで読むこと。	・ 目的に応じて、複数の本や文章などを選んで比べて読むこと。

### III 言語活動例

#### 1 読書全般（楽しみ読み、情報読み）

	第1・2学年	第3・4学年	第5・6学年
概要	本や文章を楽しんだり、想像を広げたりしながら読む。	必要な情報を得るために、読んだ内容に関連した他の本や文章などを読む。	
指導上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 様々な文章の取り上げ               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 一つの文章を読むだけでなく、科学的な読み物や物語集、絵本など、説明的な文章や文学的な文章を問わず様々に取り上げて読ませる。</li> </ul> </li> <li>○ 想像豊かに読む指導               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 楽しんで読むために、物語に描かれている世界や、説明的な文章に取り上げられている内容について、想像豊かに読ませる。</li> </ul> </li> <li>○ 交流し合う読書指導               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 楽しんだり想像したりするために、読んで思ったことや考えたことを音読発表会や感想の交流会などを通して交流し合う読書活動を行うようにする。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 疑問や課題を解決するために読む指導               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 疑問や課題を解決するためには、1冊の本や1編の文章だけでは解決できないこともある。関連する様々な本や文章を併せて読ませる。</li> <li>・ ここで取り上げる「他の本や文章」は、説明的な文章だけでなく、物語や詩などの文学的な文章も含む。</li> </ul> </li> </ul>	

	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年
国語科教材						
他教科等での活用場面						

## 2 物語・詩・伝記など

	第1・2学年	第3・4学年	第5・6学年
概要	物語の読み聞かせを聞いたり、物語を演じたりする。	物語や詩を読み、感想を述べ合う。	伝記を読み、自分の生き方について考える。
指導上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 読み聞かせ <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 物語の優れた読み聞かせは、語り手の声そのもの、声の大小、速さ、間の取り方、表情などに触れて、文字などの抵抗なしに文学作品の世界に浸ることができる。</li> <li>・ 読み聞かせによって本や文章を音読する楽しさを知り、自分でも読み聞かせや、身振りをとらった簡単な劇活動を行いたいと思うようにする。</li> </ul> </li> <li>○ 簡単な劇を演じる指導 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 読み聞かせや、身振りをとらった簡単な劇活動を行いたいという気持ちを大切に、役割を決めて読んだり、友達と協力して人形劇、音読劇、紙芝居などの簡単な劇を演じたりする活動へとつないでいく。</li> </ul> </li> <li>○ 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項との関連 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ この言語活動は、[伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項]の「昔話や神話・伝承などの本や文章の読み聞かせを聞いたり、発表し合ったりすること」と関連させて考えるようにする。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 読書範囲を広げる指導 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 一冊の本だけでなく、同じ主人公や作家、詩人のシリーズ、ファンタジーのシリーズなど、物語集や詩集などにも読書範囲が広がるようにする。</li> </ul> </li> <li>○ 自分の感想を明確に表現する指導 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分の感想を明確に表現するためには、低学年で指導したものに加えて、「感激する」、「上手に説明している」などの感想を表す言葉を増やすことが求められる。</li> <li>・ 感想が本や文章のどの叙述に基づいているのか、自分が現実に経験したこと、普段考えていることや関心のあることなどと、どのように関連しているのかなどを説明させることも必要である。</li> <li>・ 感想を述べ合ったら、自分の感想が、友達の感想と比べてどのような特徴をもつのかを認識させていくことが大切である。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自分の生き方について考えさせる指導 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 記に描かれた人物の行動や生き方と、自分の経験や考えなどとの共通点や相違点を見付け、共感するところや取り入れたいところなどを中心に考えをまとめるようにすることが大切である。</li> <li>* 伝記には、人物の取り上げ方や書き手によって偉人伝や史伝などがある。いずれも、人物の生き方を描いているので、物語や詩のような行動や会話、心情などを基軸に物語る文学的な描写が用いられることが多い。それと同時に人物の生き方や考え方、その偉業などを意味付けるといった点から事実の記述や説明の表現が用いられる。これらは、「書くこと」で取り上げている「随筆」と表現方法に共通性がある。</li> </ul> </li> </ul>

	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年
国語科教材						
他教科等での活用場面						

### 3 説明的文章・図鑑・事典・新聞記事など

	第1・2学年	第3・4学年		第5・6学年	
概要	事物の仕組みなどについて説明した本や文章を読む。	記録や報告の文章、図鑑や事典などを読んで利用する。	記録や報告の文章を読んでまとめたものを読み合う。	自分の課題を解決するために、意見を述べた文章や解説の文章などを利用する。	編集の仕方や記事の書き方に注意して新聞を読む。
指導上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「話すこと・聞くこと」「書くこと」との関連 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「話すこと・聞くこと」の「事物の説明」や、「書くこと」の「身近な事物を簡単に説明する文章を書くこと」などとも関連させて指導する。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 課題を解決しようと調べるために読む指導 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 経験や観察、調査したことなどを記録したり報告したりした文章を読んだり、図鑑や事典などを利用したりする。いずれも課題を解決しようと調べるのに必要な本や文章である。</li> </ul> </li> <li>○ 必要な本や資料を選ぶことに配慮 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「指導計画の作成と内容の取扱い」の「本の題名や種類などに注目したり、索引を利用して検索をしたりするなどにより、必要な本や資料を選ぶ」ことに配慮することが必要である。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 記録や報告の文章を読んでまとめたものを読み合う指導 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 説明的な文章を読んで、その内容や表現の仕方などについての感想などをまとめて交流する。</li> <li>・ 記録や報告の文章を読んで感想などをまとめるためには、記述や説明から、目的や必要に応じて知識や情報を選択すること、表現の仕方に注目すること、以前に読んだ本や文章と比べたり、自分の持っている知識や情報、現実などと結び付けたりして、自分の考えを深めることなどが重要である。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 意見を述べた文章や解説などの文章などを利用し役立てる指導 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「意見を述べた文章や解説の文章など」には、本以外では、新聞、雑誌、地域の情報誌などに掲載された意見、論説、報道、解説などの文章がある。また、テレビ・ラジオなどの番組で取り上げられる意見や解説など音声や映像を利用することも考えられる。</li> <li>・ 意見や解説の文章は、書き手の立場や考え方が強く反映しているのをそれらに注意して読み、自分との相違点などに注意して利用することが重要である。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 編集の仕方や記事の書き方に注意して新聞を読む指導 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新聞は、多数の人々や広い範囲に配布されるメディアとして編集され、社会・経済・政治・産業・国際・教育・文化・スポーツなど多岐にわたる内容が取り上げられている。編集に当たっては、活字や図、写真などの大きさや行数、配置などを決める割り付けなどが行われている。記事は、逆三角形の構成と呼ばれることもあるように、結論を見出しで先に示し、リードから本文へと次第に詳しく記述されている。また、事件や出来事の報道記事だけでなく、社説・コラム・解説などの記事もある。</li> <li>・ このような特徴を理解し、編集の仕方や記事の書き方に注意して読むことが大切である。</li> </ul> </li> </ul>

	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年
国語科教材						
他教科等での活用場面						

#### 4 本の感想・紹介・推薦

	第1・2学年		第3・4学年	第5・6学年
概要	物語や、科学的なことについて書いた本や文章を読んで、感想を書く。		紹介したい本を取り上げて説明する。	本を読んで推薦の文章を書く。
児童上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 感想を書く指導 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 感想を書くためには、本や文章の種類を意識して内容の大体を理解するとともに、文章の内容と自分の経験や問題意識とを結び付けて読むことが必要である。</li> <li>・ 自分の経験や問題意識とは、日常生活の中で自分が疑問に思っていることや興味のあること、今までの学習経験や読書経験との関連、その本や文章を読むことになったきっかけなどである。低学年では、自分の経験を思い出すときにこれらのことに注意して指導するようにするとともに、</li> <li>・ 「心に残る」、「すばらしい」、「よく分かる」などの感想を表す言葉の指導を併せて行い、自分の思いや考えを明確に表現できるようにすることが必要である。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 人に紹介する指導 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 紹介することを通して、自らの読書生活を豊かにするとともに、紹介する相手と、本を読みたい気持ちを共有して読書の輪を広げていくようにする。</li> <li>・ 紹介する内容は、低学年では、好きなどころなどが中心となる。</li> <li>・ 「一人で読める」、「おもしろくてたまらない」などといった紹介のための言葉を活用しやすいように語彙表を配布したり、実際の本の紹介文、本の帯、広告カード（ポップ）などの実物をモデルとして示したりして、そこから紹介文の書き方の要素を見付け出させるなど自らの気付きを大切に学習が進められるようにする。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 相手が知らない本や、自分が読んで紹介したいと思う本を取り上げて紹介する指導 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ なぜ紹介したいのかという、紹介するのにふさわしい理由を十分説明することが必要となるので、選んだ本の内容や構成全体をよく理解することが欠かせない。そのため、例えば、必要な文や語句を書き抜いたり、要約したり引用したりするなどの準備が必要となる。</li> <li>・ 紹介を目的とした説明では、書き抜きや要約、引用した部分を理由や根拠として示すことが有効である。</li> <li>・ 書き抜きや要約、引用の対象には図や表も含まれる。</li> <li>・ 実際に紹介するに当たっては、本を提示したり、要約や引用した部分のページをめくって見せたり、音読したりするなどして、紹介が効果的に行われるよう工夫をさせるようにする。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本を読んで推薦の文章を書く指導 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 推薦するためには、自分の目的とともに、相手の目的も考慮し、どのような本を取り上げるのか、また取り上げた本の何を主に推薦するのかなどを決める必要がある。</li> <li>・ 文学的な文章にしろ、説明的な文章にしろ、それぞれの本の特徴をとらえて推薦するようにする。そのために、本をよく読み込み、相手に伝わるような構成や推薦するための言葉などに注意して叙述を整えることが欠かせない。</li> <li>・ 推薦する対象となる本の内容や、書き手に関連する本を重ねて読んだり、書き手自身のことについても調べたりすることも大切となる。</li> <li>・ 推薦の方法としては、本の帯やポップ、ポスターや読書郵便、リーフレットやパンフレットなどが考えられる。</li> </ul> </li> </ul>

	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年
国語科教材						
他教科等での活用場面						



